

クラブユース選手権北海道大会

2013年6月30日, 7月6~7日, 13~14日, 20~21日

会場: 夕張平和運動公園

【報告者】 HFAテクニカルスタディグループ

優勝: コンサドーレ札幌U-15

準優勝: スプレッドイーグルFC函館

3位: 札幌ジュニアFCユース

4位: R.シュペルブ釧路U-15



チームが個を活かす、個がチームで機能する

北海道クラブユース連盟に加盟する48チームがこの大会に臨んだ。今回は、7日間にわたる戦いのうち準決勝2試合を通して、北海道の個の育成を観点に分析を行った。

1. 大会の概要

北海道クラブユース連盟に加盟する48チームがトーナメントを闘う。試合時間は80分(40分ハーフ)。1日1試合で4週間かけて7日間行う。

今大会で優勝および準優勝したチームはアディダスカップへ、3位はデベロップカップ(いずれも十勝開催の全国大会)へ、4位およびベスト8へ進出し敗退した4チームの内3チーム(抽選にて決定する)は、茨城県にて開催される第1回東日本インターシティカップへ出場する。

2. 守備

(1) チャレンジ&カバー

●常にチャレンジ&カバーを徹底して、積極的にボールを奪おうとトライしていたチームがあった一方で、ブロックの形成によって相手の攻撃のようすをうかがい、ある一定のエリアに入ってから奪いに行くというようなチームも見られた。

●コンタクトスキルの習得、相手FWとの距離間に課題があり、相手FWを自由にさせてしまう場面が失点につながることもあった。

●ボールの動きにつられて守るべきスペースを空けてしまったり、OFFにおける的確なポジションをとれない選手が多くいた。

(2) 積極的な守備・コンタクトスキル

●ボールを奪う技術としてコンタクトスキルの向上は欠かせない。それには、積極的に奪いに行くためのポジショニングとその修正・相手のプレーの予測が大切である。相手のボール保持状況によっては、ブロックの形成を優先しつつ、奪う瞬間を見逃さない、奪えると判断したら個として積極的に奪いに行く。この繰り返しが、スキル習得及び「個人戦術」の形成につながるのではないだろうか。そのような意味では、北海道の現状としてはまだ物足りないと言わざるを得ない。

REGULATION



スケジュール

6/30: 1回戦 7/6: 2回戦 7/7: 3回戦

7/13: 4回戦 7/14: 5回戦

7/20: 準決勝 7/21: 決勝

試合時間: 80分

(3)ヘディングの競り合い・スロインの攻守

- ヘディングでの競り合いで手を出してしまったり、頭に当てるだけで精一杯だったり、跳ね返すだけで、ボールを失うケースも見られた。
- ヘディングの競り合い後、セカンドボールを拾う他のプレイヤーの読みのポジションニングのみならず、ヘディングをするプレイヤーのパスの技術も重要となる。
- 自チームのスロインでは、まず受け手のアクションやその連動性に課題がある。止まって受けることですぐに相手のプレッシャーを受けてしまっていることが多い。また、出し手は、前に放り込むだけで終わっていたり、味方のアクションによってできたスペースをうまく利用できていないことが多くある。
- スロインの守備では、奪おうとする意識があるのはよいが、それが、スロアーと自分のマークとの関係だけになってしまい、背後にスペースができて、相手の攻撃のスピードを上げることに繋がっていた。

(4)守備の連動

- 守備の連動という意味で、GKを含めた守備と考えた時に、シュートを打たれる危機感を共有し、GKやDF陣による的確なコーチングにより“シュートを打たせない”という守備の場面が少なかったように感じた。
- “ボールを奪う”“シュートを打たせない”ことが失点しないための最善の方法である。それを、味方どうしが連動して達成するためにも普段のトレーニングで、2対2・3対3等のミニゲームでも、それを意識した取り組みが大切であると考える。

3. 攻撃

(1)テクニク



- 高い位置でボールをもらい、前を向いて、中からも外からもゴールに向かい、シュートを撃つシーンが多く見られた。特に、バイタルエリアのしかけでは、相手を見て判断したプレー、キックフェイントやターン、切り返しなど工夫をし、ゴールを目指していた選手もいた。
- 一方で、自分自身のスピードについて行けなかったり、相手を見ずにしかけて、ボールを失う場面も多く見られた。
- コントロールはスピードを落としても、攻撃の選択肢が持てるよう、視野を確保し、ボールを動かすことをトレーニングで振り返ってみることが大切である。また、良い準備として、前を向ける準備やシュートを打てる準備、さらには決定的なパスを出せる準備等々、ボールが動く中で、良いポジションニングも意識するよう、指導では声をかけていくべきである。
- 結局のところ、状況に応じたコントロールやパス、動きながらのパス&コントロールの質がまだまだ低いことがわかる。特に、ハイプレッシャー時にはすぐに失ってしまうことが多い。

(2)コンビネーションと関わり

- 1トップや2トップにボールを預けて、サポートと連動し、崩してゴールを目指す攻撃や幅を持ってボールを動かし、サイドからの崩しで数的優位をつくり、ゴールを目指す攻撃などチーム毎、選手が戦術を理解して戦っている場面が多く見られた。特に上位チームには個の突破力の高い選手が揃っていて、積極的な仕掛けが見られた。ただ、バイタルエリアでのポ

SEMIFINAL



SEMIFINAL



ールホルダーを追い越すプレーやワンツーパスによる崩しは、戦術の選択として、もう少し見られても良かったと感じた。

- 個の突破に頼りすぎて、常に関わり続ける意識や数的優位をつくる意識の低さも目立った。また、80分のゲームで最後まで走りきり、関わり続けることが困難な選手も多く見られた。この部分は大きな課題であると考える。
- 攻撃の幅や厚みを攻守の切り替えで、無理なくゴールを目指せるよう、正しいサポートのポジショニングや関わる選手の数などは、日頃のトレーニングで幅と厚みを設定した中で修正し、どんな戦い方になっても臨機応変に、関われるよう習慣づけたい。

4. 切り替え

- 守備から攻撃の切り替えでは、切り替えの意識が高く、素早い対応(正しいポジショニング)が多かった。さらに、ポジション修正なども素早くできていた場面もあった。
- 攻撃から守備への切り替えでは、ファーストDFの決定が速く、素早くポジショニングをとる意識が高いチームが多かった。ただ、前述にもあるように、ファーストDFの質の部分で差があり、そこで崩されることもしばしばあった。

5. GK

ゲームにおけるGKのプレー状況別に以下のように成果と課題をあげた。

①シュートストップ

チーム全体でのディフェンスに対する意識が強く、シューターに対して最後までくらいつき、フィールドプレーヤーがシュートブロックする場面が多くみられた。

ゴールマウスに飛んでくるシュートに対しても、GKがしっかりと準備をして、相手が簡単にゴールを奪えない状況ができていた。

左右のポジションはボールとゴールの中心を意識してとり続けることが出来ているので、前後の積極的なポジション(頭上をケアしながら出来るだけ前に出てシュートコースを消す)を味方や相手の状況に応じて意図的にとり、シュートコースを狭めて、シューターに対してもっとプレッシャーをかけて、より主導権を持ってプレーしてほしい。

②ブレイクアウェイ

GKと1対1の状況の中で、最後まで相手をよく観て、体勢をキープし、シュートを弾いたり、体でブロックする場面が多くあった。

相手と味方の状況をもっと把握し、状況に応じてより、積極的なポジションをとることができ、1対1の状況になる前にインターセプトを狙って、チームの攻撃につなげてほしい。

③クロス

GKにとってのインターセプトできるチャンスボールの場面が少なかったため、技術的なコメントはできないが、クロスボールがあがる前に、ゴール前の状況をもっと把握する必要がある。

サイドを突破されかけ、ボールが



動いている状況の中で、どれだけ中の状況を確認して、リスクを予測して、「味方にプレーさせる事」と「自分でプレーする事」の判断を早く適切にできるかが、圧倒的にディフェンス優位な状況を作り出す事につながっていく。

そして、GKがインターセプトするメリットの大きさを選手全員が意識して、コンビネーションよくクロスボールに対応し、ボールを奪い、チームの攻撃につなげていきたい。

④ディストリビューション

GKからの配球はキックが中心で、ロングフィードを多用する場面が多かった。

ハーフボレーやボレーキックの距離が向上し、ミスキックの回数が非常に少なくなっている。

プレスキックは距離と精度が若干不安定であり、キックミスでボールを失う場面があった。

フィードの成功率は30%程度で、結果的に相手ボールになる場面が多かった。

キックの距離（ミートすること）は向上しているの、その正確性をもっと向上させたい。

フィードをより効果的にするために、GKがボールを奪ったらチーム全体が効果的に動き出し、フィールドプレーヤーと連携をよくして、ボールを大切にしながらもチャレンジし相手ゴールを目指していきたい。

⑤予測とコーチング

U12年代に比べ、「どこが危ないか」「何をしてほしいか」というメッセージをより具体的にチームに伝える事が求められる。

試合を通じてGKがボールウォッチャーになっている場面が少し多いように思われたので、オフザボールにおける相手と味方の状

況をもっと把握する必要がある。

GKがグラウンド内の情報をもっと仕入れ「予測」し、フィールドプレーヤーの気がつかない部分をチームに的確に伝え、言葉で仲間を助けるという事の経験をもっと増やして、自分とチームに自信を与えてほしい。

6. まとめ

準決勝2試合を通して、ともに力の差を感じるゲームであった。ただ、その差を埋める特効薬を考えるよりも、この年代の育成では個人戦術の徹底が大切であると感じる。パス&コントロールの質、ヘディング、スローインなどのテクニックの向上を求めるべきである。そして、常に攻守に関わり続ける意識と最後まで走り続ける持久力を身につける必要がある。型にはまった組織的なサッカーを展開するよりも個の判断力を磨くことに力点を置いて育成することが重要ではないかと感じた。

最後に、今回のレポートを作成するにあたり、協力いただきました主催者・チーム・関係各位には感謝申し上げます。今後とも、北海道のユース育成のため、ご協力お願いいたします。



主催者コメント

北海道クラブユースサッカー連盟 会長：加藤孝俊

北海道のクラブユースサッカー（U-15）の普及・発展を目指して開催している北海道クラブユースサッカー選手権（U-15）大会も19回目となりました。JFAが推進したこの年代の地域リーグを、全国に先駆け平成19年に北海道カブスリーグU-15という名称で発足しました。年を追うごとにブロックカブスリーグ、地区リーグも整備され、北海道の3種リーグの形が確立しました。北海道クラブユースサッカー連盟も、そのリーグ化をスムーズに進めるために、地区予選を廃止して、北海道クラブ選手権トーナメントにした経緯があります。リーグ化が浸透したことで、北海道クラブユースサッカー連盟加盟チームは、レベルの拮抗したリーグに年間を通して参戦し、やり直しができるリーグ戦で、日々個人のスキルとチーム力のアップのできる環境にすることが出来るようになりました。しかし、この大会は、北海道クラブユースサッカー連盟加盟全クラブが、トーナメント戦で優勝を目指し、リーグ戦とは異なる一発勝負に挑む大会であります。今後も北海道クラブユースサッカー連盟唯一の公式大会として、選手にリスペクトされる大会であり続けたいと思います。。

TSGメンバー

- 菅田 浩之
(チーフ・伊達中学校)
- 星 和彦
(ゲーム分析・恵み野少年団)
- 本多 孝至
(GK分析・札幌創成高校)
- 所 桂太郎
(ゲーム分析・SC釧路)

- 長田 拓生
(ゲーム分析・厚真サッカー少年団)

ベスト16チーム

- SSSジュニアユース (札幌)
- コンサドーレ札幌U-15 (札幌)
- アンフィニMAKI FC U-15 (札幌)
- スプレッドイーグルFC函館 (道南)
- DOHTO Jrユース (道央)
- R.シュベルブ釧路U-15 (道東)
- コンサドーレ旭川U-15 (道北)
- 札幌ジュニアFCユース (札幌)

- NORTE札幌FC (札幌)
- FC DENOVA (札幌)
- LIV FOOTBALL CLUB U-15 (札幌)
- Generale Muroran U-15 (道南)
- クラブフィールズU-15 (札幌)
- プログレッシブ十勝FC U-15 (道東)
- 帯北アンビシャス (道東)
- CASCABEL SAPPORO (札幌)

